

# ネット時代の落とし穴

## Webコンテンツの 商業利用と著作権リスク

いまやほとんどの企業が、何らかのかたちでインターネットを利用した情報発信を行なう時代。それにともない、著作権侵害などを犯すリスクも高まっています。会社としてWebコンテンツを発信する際の留意点を解説します。



STORIA法律事務所  
弁護士  
山城 尚嵩

### なぜ、いま著作権 なのか

デジタル技術の進展により、誰もが簡単に文章、画像・イラスト、音楽・動画などのコンテンツを制作し、またこうしたコンテンツを利用し、さらにはウェブサイトやSNSにアップすることが可能になりました。こうしたコンテンツの多くは「著作物」として、著作権法という法律により保護されるものです。

つまり、公道を運転する際に道路交通法のルールに則って運転をするのと同様、デジタル社会における著作権法は、私たちの生活にとって非常に身近なコンテンツの利用ルールとなっています。

著作権法が身近になるにつれ、自らのコンテンツを保護する必要のあるコンテンツの権利者における権利意識が高まっています。

たとえば、2024年に入ってから確定した判決において、ある鉄道会社は、新聞社に許諾を得ることなく、新聞記事の一部をスクリーンしたデータを社内イントラネットにアップロードし、2社の新聞社から訴訟を提起され、合計800

万円以上もの賠償金を支払うこととなりました。また、2021年には、人気アニメ『鬼滅の刃』のキャラクターを描いたケーキを無断でつくって販売したとして、ケーキ職人の女性が著作権法違反で書類送検されました。

このような司法の問題とならずとも、日々、インターネット上では著作物を巡って炎上が相次いでいます。加えて最近では、チャットGPTのような生成AI技術まで登場し、著作権を巡る状況はさらに複雑化しています。

そこで本稿では、総務担当者が社内外に向けてプロモーションやマーケティング目的での情報発信を行なうに際し、著作権の落とし穴に落ちることのないよう、著作権の基礎から最新の動向までを紹介します。

### 著作権で守られる 「著作物」とは？

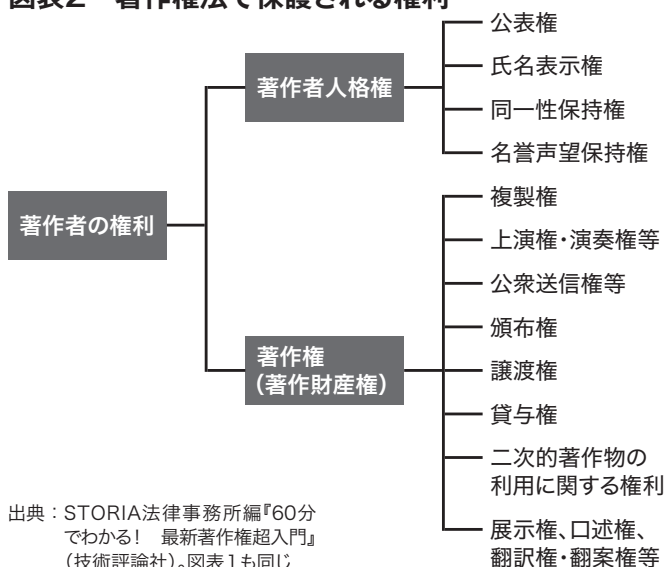
第一に、著作権法上、著作権により保護を受ける「著作物」とは何を指すのでしょうか。

著作権法上、著作物は「思想または感情を創作的に表現したものと定義されます。これを分解

図表1 著作物の種類の例示

言語の著作物	小説、脚本、論文、講演など
音楽の著作物	歌詞、楽曲など
舞踏の著作物	ダンスやパントマイム等の振付など
美術の著作物	絵画、版画、彫刻など
建築の著作物	宮殿や凱旋門など。建売住宅等は非該当
図形の著作物	地図、学術的な図画、図表、模型など
映画の著作物	劇場用映画、ゲームソフトなど
写真の著作物	フィルム写真、デジタル写真など
プログラムの著作物	プログラムコードなど

図表2 著作権法で保護される権利



出典：STORIA法律事務所編『60分でわかる！ 最新著作権超入門』（技術評論社）。図表1も同じ

そして、これら著作権や著作人格権という権利は、複数の権利から構成される「権利の束」となっています（図表2）。たとえば、著作権に含まれる代表的な権利に、「複製権」と呼ばれる権利があります。著作者が複製権を有するということは、著作者は、自ら創作した著作物を独占的に複製（コピー）して利用できるということです。逆に言うと、著作者は、自らの著作物を無断で複製（コピー）しよう

とすれば、書籍出版された原稿が購入者に利用される過程でいうと、ある原稿が印刷・製本される過程では「複製」が発生し、これを出版社から書店に引き渡す行為は「譲渡」にあたります。購入者が手元でスキャンする行為も「複製」に、これをネット上にアップロードする行為は「公衆送信」にそれぞれ該当します。なお、日常用語では聞き慣れない言葉ですが、著作人格権に含まれる「同一性保持権」や著作権に含まれる「翻案権」といった権利は、元の著作物に新たな要素を追加した二次創作を禁止する権利であり、広くパロディ等を制限する根拠となっています。

すると、①思想または感情に由来するものであること、②創作的であること、③表現したものであることの3要素に分けられます。まず、①思想または感情に関するものであることから、たとえば、2020年の東京オリンピックが1年延期されたという「歴史的事実」や、ある地域の年間の降雨量などの「データ」は、著作物には該当しません。次に、②創作的であることは、著作者の個性が表現されていれば足りるとされていますが、反面、

誰がつくっても似たような表現（ありふれた表現）となる場合には、創作性が否定されます。最後に、③表現したものであることが要件になっているのは、思想（アイデア）自体は著作物ではないことを明確化するものです。つまり、スポーツのルールはアイデアであるためそれ自体保護されず、また画風や作風等についても通常は「表現」そのものではないために著作物として保護されません。著作権法が例示する著作物の

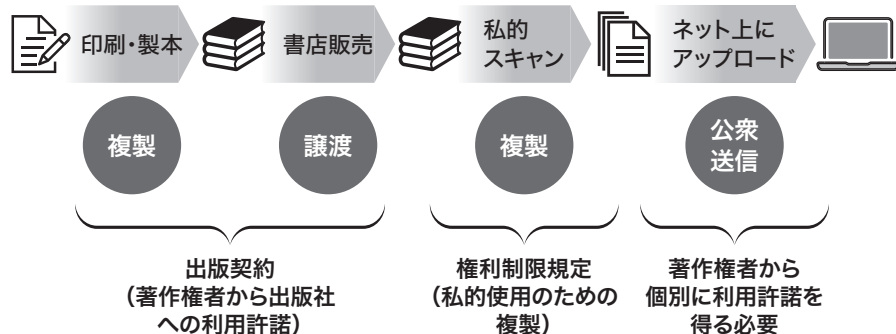
種類を整理したのが図表1です。著作権法で保護される権利とは？

(1) 著作権法で保護される権利は「権利の束」になっている

著作権法は、著作物を創作した人（著作人）の権利として2つの権利を保護しています。このうち、財産的権利に当たるのがいわゆる「著作権」であり、人格的権利に当たるのが「著作人格権」と呼ばれる権利です。

とする他人に対して、当該複製を禁止することができる地位を有します。このように著作権や著作人格権といった著作権法上の「権利」は、「対象となる著作物を自ら独占的に利用し、他人の利用を禁止することのできる独占権・禁止権」と理解するとわかりやすいでしょう。また、著作権法上の権利は、個々の利用行為ごとに働きます（次ページ図表3）。

図表3 例) 書籍出版の流れと著作権法上の権利



出典：STORIA法律事務所編『60分でわかる！ 最新著作権超入門』（技術評論社）

## (2) 著作権と著作者人格権、著者と著作権者

著作権は財産的権利であるため、著作権に含まれる個々の権利は他人に譲渡することができま

ができません。

また、このように著作権は譲渡可能であることから、著作物を最初に創作した人を表わす「著作者」という言葉とは別に、現時点で著作権を持つている人を表わす言葉として「著作権者」という言葉を用います。

## 法律違反にならない他人のコンテンツの利用方法

### (1) 他人のコンテンツは原則使用不可

他人が創作したイラスト、写真、動画、音楽といったコンテンツの多くは著作物に該当し、著作権が発生します。そして、著作権とは、著作権者に認められる当該著作物（コンテンツ）の独占権・禁止権でした。

したがって、著作権法上、他人が創作した著作物（コンテンツ）は自由に利用することができないことが原則となります。

もともと、法律違反とならない他人のコンテンツの利用方法として、著作権法はいくつかのルールを定めています。以下ではその代表的な例として、①著作権切れコンテンツ、②権利制限規定、③著

作権の譲り受け・ライセンスを紹介します。

### (2) 法律違反とならないコンテンツの利用方法

#### ① 著作権切れコンテンツ（保護期間）

著作権は、特許権など特許庁への登録が必要な他の知的財産権とは異なり、創作と同時にその権利が発生する知的財産権です。そして、その権利の保護期間は、原則として著作者の死後70年間とされています。

このような著作権の保護期間が満了したコンテンツを「著作権切れコンテンツ」と呼んだり、「パブリックドメイン」と呼んだりします。

最近では、初期のデイズニー映画である「蒸気船ウィリー」に登場するモノクロのミッキーマウスの保護期間が満了したことが話題になりました。もともと、著作権の保護期間が満了していても商標権などの別の権利により保護されるケースがあるため、この点は注意を要します。

#### ② 権利制限規定

著作権により、著作権者は、著作物を独占的に利用し、また他人

の著作物の利用を禁止することができます。もともと、著作権法は、著作権に、誰でも例外的な自由利用ができるための「穴」を最初から設けています。

この著作権の効力を制限する穴のことを「権利制限規定」といいます（図表4）。

権利制限規定の代表例が「私的使用目的の複製」です。想定されるケースは家庭内における著作物の複製（コピー）であり、このような場面では著作権者に与える不利益が少ない反面、逐一著作権者に事前の承諾を得ることは現実的ではないことから、権利制限規定として認められています。

なお、私的使用目的で著作権が制限されるのはあくまで複製（コピー）に関する部分だけです。

次に代表的な権利制限規定が「引用」です。著作権法の引用ルールによれば、引用元の出所を表示したうえで、「公正な慣行に合致するものであり、引用の目的上正当な範囲内で行なわれるもの」であれば、誰でも自由に、事前承諾を得ずに、他人のコンテンツを利用することができます。

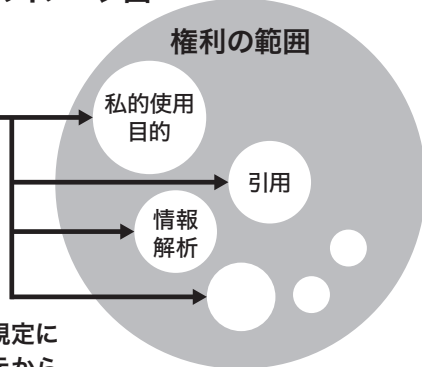
伝統的には、コンテンツ間の主従関係（自己のコンテンツが



図表4 権利制限規定のイメージ図

例：複製権

穴(○)の空いた部分が  
権利制限規定により、  
著作権者の許諾を得ず  
に複製をできる自由な  
利用領域



➡ 著作権には、権利制限規定に  
よる自由領域(穴)が元から  
予定されている

出典：STORIA法律事務所編『60分でわかる！ 最新著作権超入門』（技術評論社）

「主」で、引用したいコンテンツが「従」であること）、コンテンツ同士の明瞭区分性が必要であると言われています。

③ 著作権の譲り受け・ライセンス

著作権者から著作権を譲り受け、またはライセンス（利用許諾）をもらうということも、法律が認めた立派なコンテンツの利用方法です。

先に見た著作権切れコンテンツや権利制限規定では、通常、著作

物の利用対価を支払う必要がないのに対し、著作権の譲り受け・ライセンスの場合には、多くの場合に、著作権者と交渉してその対価の有無や額を決定することになります。

また昨今では、インターネットを経由して、写真や動画、音楽などのコンテンツをダウンロードすることができるサービスも存在しています。

こうしたウェブサイトを利用する際の注意点として、多くの場合には、当該コンテンツの著作権の譲渡を受けられるわけではなく、あくまでもコンテンツの利用許諾を受けられるに過ぎないことが多い点です。そのため、コンテンツによっては完全に自由な利用ができず、たとえば利用目的が一定の目的に決められているようなケースがあり、注意が必要です。

また、こうしたインターネット上のコンテンツには、「著作権フリー」という記載とともに公開されているものもあります。

もちろん、こうしたコンテンツのなかには無料素材として配布されているものもありますが、過去には、写真等の素材販売サイトを運営する原告企業の著作物である

写真素材をフリー素材であると誤信して無断で利用していたケースにおいて、裁判所が被告企業に対して20万円の支払いを命じたケースもあります。

## デジタル時代の著作権との付き合い方

企業のマーケティングやプロモーションにおいて、インターネットはもちろんのこと、自社のSNSを利用することも増えてきています。これにより、従前はリーチできていなかった見込み客に情報が行き届くようになった反面、その分、自社の発信する情報に著作権侵害等をするコンテンツが含まれている場合の紛争リスクが高まっているとも言えます。

まさに冒頭で紹介した、『鬼滅の刃』のキーキを販売して著作権法違反の罪に問われた女性も、インスタグラムを利用して、客から送られた画像を元にキャラクターキーキを制作して宅配便で届けることにより利益を得ていました。

また、昨今話題となっているチャットGPTなどをはじめとする生成AIにおいても、画像生成AIについては、一部のイラストレ

ーターから権利侵害であるという声が大きく、仮に著作権侵害に当たらないとしても利用に留意すべき場面があります。

たとえば、海上自衛隊は、2024年4月に、画像生成AIを利用して生成したアニメ風の女性のイラストをポスターに利用しました。これに対し、SNS上では、「画像生成AIが著作権侵害であるという疑いがあるにもかかわらず利用すべきではない」という意見が多数集まり、海上自衛隊は当該ポスターの配布を中止するに至りました。

以上のように、デジタル社会においては、著作権を正しく理解していないことによる著作権法違反のリスクや、著作権侵害に当たらないとしても、コンテンツの利用方法や生成方法によって生じる炎上リスクなどが複雑に絡み合っています。

こうしたリスクを避けるためには、著作権を正しく理解し、専門の弁護士に常に相談できる体制を整えておくことや、また、常日頃から社会的にどのようなコンテンツの利用が炎上しやすいのかなどを肌感覚として身につけておくことが必要になります。

やましろ なおたか 2016年兵庫県弁護士会登録。以後、インターネット、アプリ、ゲーム、音楽等のさまざまな業界において著作権をはじめとするADパイスを専門的に実施。近著に『60分でわかる！ 最新著作権超入門』（技術評論社）。